

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社団 洛和会	代表者	矢野一郎	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス変更時の柔軟な受け入れ ・ご利用者のペースにあわせたサービス提供 ・職員間の情報共有と誰でも発言できる環境 ・町内会の行事などの参加
事業所名	洛和小規模多機能サービス西院	管理者	井上由紀子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	2人	0人	0人	1人	0人	2人	0人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	スタッフ全員で決めた改善策を表にまとめ進捗状況を見てもらう	左記の改善計画を実施した。	自己の振り返りは大切ながら、この制度自体が解り辛く、事業所の負担が心配。(地域住民)	前年度の改善計画が自分達の振り返りにも有用であるため、継続する。
B. 事業所のしつらえ・環境	「いつでもお入り下さい」などなるべく利用者様と手作りしたウェルカムボードを出す	ウェルカムボード設置は追いつかず。地域にも解放するベンチは設置し、使う方々が散見された。	「雨宿り・給茶・介護相談にお立ち寄り下さい」など目的を明確化し呼び込めばどうか？(地域住民)	目的を明確化した呼び込みボードを設置する。 ベンチの地域解放を継続する。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の講師などの依頼は全て受ける	依頼件数は少ないが要請に応じ引き受けた(認サポ講師と西院小の福祉の授業の講師役)	事業所人員の厳しい土日に地域行事が重なり、参加したくても難しいという悩みに共感(有識者)	人員体制を理由に未参加が続いていたので、地域の防災訓練に年一度からでも参加する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者本人が住んでいる地域の方を交えた会議を実施した際は運営推進会議で報告する。	4回の地域ケア会議を開催し、運営推進会議で報告した。	利用者様の地元が事業所地域外のケースも多く、全員の地元行事参加は厳しいと共感(有識者)	引き続き、利用者がお住まいの地域の方を交えた会議を開催したら運営推進会議で報告する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	レジュメに「地域の心配事は？」の設問を入れておく	「地域の心配ごとは？」を議題に挙げたが出てこず。相談が自然に出た時だけ共に考える形へ変更。	「心配事は？」→「災害時に心配な地区は？」など視野を広げ具体的な質問に変えては。(地域住民)	「心配事は？」の呼びかけは中止し、相談が自然に出た時、密に対応できるよう専門性を高める。
F. 事業所の防災・災害対策	大地震を想定した防災訓練の研修受講職員が小規模内で伝達。次年度は地域へ伝達する。	欠員等、人員体制が整わず、左記伝達講習は未実施。	H30年に地域初の避難所を設置も寛げる環境になかった。向上の相談に乗ってほしい。(地域住民)	今回こそ大規模災害想定での伝達講習を実施する。